

学習指導案の形式（例） 高等学校

◇学習指導案には、定まった形式や基準はない。生徒の実態や指導内容、指導者の構想や意図により、様々に創意工夫していくことが求められている。「高等学校学習指導要領解説（平成30年7月 文部科学省）」、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料（令和3年8月 国立教育政策研究所）」等を参考に作成する。

芸術科（美術〇）学習指導案

〇〇高等学校 〇〇科 〇年〇組
 令和〇年〇月〇日（〇）第〇校時 〇〇教室 指導者 〇〇 〇〇

1 題材名

- ◇学習指導要領に示す各教科等の「第2款 各科目」における各科目の「1 目標」及び「2 内容」の項目等をそのまとまりごとに細分化したり整理したりしたものを「内容のまとまり」という。この「内容のまとまり」を踏まえて、単元や題材を設定する。
- ◇活動のねらいや内容、美術の視点等を考慮し、名称を設定する。
- ◇生徒が親しみやユーモアを感じ、興味・関心を高め、意欲的に活動に取り組めるような名称を工夫する。

2 題材の目標

- ◇学習指導要領の「内容のまとまり」の記載事項等を踏まえて設定する。
- ◇（1）の「知識」と「技能」、（2）の「発想や構想」と「鑑賞」をまとめて記述してもよいが、ねらいを明確にするために、（1）を「・」の箇条書きで「知識」と「技能」に分けたり、（2）を同じく「発想や構想」と「鑑賞」に分けたりして記述してもよい。

- 例（1）「知識及び技能」に関する目標（例：～理解する。～できる。～表す。等）
 （2）「思考力、判断力、表現力等」に関する目標（例：～できる。～考える。深める。等）
 （3）「学びに向かう力、人間性等」に関する目標（例：～しようとする。等）

3 題材の評価規準

- ◇評価規準の設定に当たっては、「『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料」の巻末に記載されている「内容のまとまりごとの評価規準(例)」を基に、題材の内容に合わせて作成する。
- ◇「知識・技能」「思考・判断・表現」の評価規準は、当該題材で育成を目指す資質・能力に該当する指導事項の文末を「～している。」として作成する。
- ◇「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、観点別に学習状況の評価をするものだけを、題材に即して「表現する活動」や「鑑賞する活動」を具体的に表記する。文末を「しようとしている。」として作成する。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
（題材の目標に対して） ～理解している。 ～表している。 等	（題材の目標に対して） ～考えている。 ～深めている。 等	（題材の目標に対して） ～しようとしている。 等

4 指導上の立場

- 題材観
- 生徒観
- 指導観

◇指導者の立場で書く。

◇題材（単元）観

…学習指導要領の記述から「題材（単元）を通して身に付けたい力」について整理すると共に、「題材（単元）の系統性」（何を学んできたのか、今後どんな学びにつながるのか）も併せて整理する。その際、教科書教材や資料集等の分析を行い、その題材（単元）の難しさを把握し、生徒の学習課題を把握して書く。

◇生徒観…題材（単元）や本時に関する「既習事項の定着状況」と「学習に対する課題」を生徒の実態として記述し、整理する。

◇指導観…題材（単元）観と生徒観で記述した「学習上の課題」を克服するための指導者の意図や思いを「学習指導のためのアプローチ」として具体的な指導・支援の手立てを書く。これが研究授業の「研究仮説」や「提案性」につながる。

5 指導と評価の計画（全○時間）（○…「指導に生かす評価」、●…「記録に残す評価」）

次	時	ねらい・学習活動	知・技		思		態		評価規準及び評価方法
			知	技	発	鑑	表	鑑	
一	1	◇生徒の立場で書く。				○		○	○例：～している。 ～しようとしている。 【記述分析、行動観察】
	2					●		●	
二					○			○	
三			○	○					

◇記録に残す評価の材料として、完成作品等の活用も考えられるが、学習の過程を重視し、生徒の変容や深まりを見取るようにする。

◇「知・技」は「知識・技能」、「思」は「思考・判断・表現」、「態」は「主体的に学習に取り組む態度」を示している。
 ◇各観点は、「知識」と「技能」、「発想や構想」と「鑑賞」、「表現における主体的に学習に取り組む態度」と「鑑賞における主体的に学習に取り組む態度」に分けて示している。
 ◇各観点は、それぞれ一つの枠で示してもよいが、評価の観点が明確になるように表記する。

6 本時案（第○次 第○時）

(1) 本時の目標

- ◇「2 題材の目標」「5 指導と評価の計画」との整合を図る。
- ◇本時の評価規準との整合を図る。
- ◇生徒の立場で書く。

(2) 展 開

学習活動	教師の指導・支援	評価規準及び評価方法
1	◇生徒の立場で書く。	◇指導者の立場で書く。
2	◇「2 題材の目標」「5 指導と評価の計画」との整合を図る。 ◇本時の評価規準との整合を図る。 ◇生徒の立場で書く。	◇生徒の立場で書く。
3	◇活動に順序がある場合は、(1)(2)で書く。 ◇導入・展開・終末の学習過程に沿って、生徒の学習活動を具体的に書く。 ◇授業展開については、「岡山型学習指導のスタンダード（授業5）」を参考に する。	◇題材を通して資質・能力を育成する踏まえる評価規準を具体的に表現する。 ◇評価の場面は1、2箇所に絞る。 ◇評価規準に合わせて、観点を明記する。 ◇評価方法を具体的に書く。
4	◇学習活動に沿って、指導・支援の意図、指導方法の工夫等について留意すべきことを具体的に書く。 ・生徒が主体的に学習を進めるための手立て ・生徒が対話的に学習を進めるための手立て ・生徒が学習を深めるための手立て ・生徒一人ひとりの学習状況に応じた手立て ・予想される生徒の反応 ・資料提示のタイミングや方法 ・効果的な学習方法や学習形態の工夫・準備物 等 ◇学習活動と教師の指導・支援との関わりを対応させて書く。 ◇「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立ての例を示す。	◇評価方法の例 ・発言の内容 ・行動の観察 ・ノート、ワークシートの記述 ・アイデアスケッチ ・作品 等
5	◇本時に何を学んだのかが分かるように整理し、本時の目標と対応したまとめを書く。	◇「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立ての例を示す。
5	◇学習の成果が自覚できる振り返りの視点を明確にして書く。振り返りの視点は、『岡山型学習指導のスタンダード【増補版】授業改善「一歩先へ！」』を参考にする。	◇「努力を要する」状況（C）と判断される生徒への手立ての例を示す。

◎「おおむね満足できる」状況（B）と判断する生徒の姿の例

- ◇本時の評価規準に照らして、本時でねらう生徒の姿について、想定される生徒の発言や記述例等を取り入れながら具体的に書く。なお、ここに挙げる具体的な生徒の姿が、どのような指導によって表れるのか等、指導と評価のつながりを意識して書く。

(3) 準備物

- ◇ワークシート等必要な準備物を書く。